

5月28日市長定例記者会見

【司会】

それではただ今から市長定例記者会見を開催いたします。

先ほどご案内しましたとおり本日もライブで配信をしております。

本日の話題1件であります。それでは市長よろしく願いいたします。

【市長】

昨日、令和に入って初めての静岡市のプレミアムフライデーの官民連携の協議会をここで行ったわけなんですけどもね、3年目に入って、もう金曜日、午後3時、仕事切り上げて飲みに行こうっていう国から最初に発したメッセージ、その呪縛から解放されようと。とにかく静岡型をしていこうと。もっと豊かな暮らしのプレミアムな活動にあてていこう、つまり働き方改革につなげていこうというふうに議論を深めていきましたが、とにかく経済産業省も、これからもやっていくという強い決意だと昨日、担当者もおっしゃっていましたので、自治体として我々も土俵際ではありますけれども、このプレ金をこれからも、働き方改革の1つのツールとして、ワークライフバランスに優れた静岡ライフ、皆さんも同じだと思うけれども、報道機関は事件があったらすぐにはいかなければならないので、大変だと思いますけれども、でも、静岡市で仕事をしていれば、プライベートの私生活もとってもバランスの取れた、調和のとれた充実した生活ができるよと。東京よりもここの方がそういう意味で、トータルな意味で人生を謳歌できるよと。そんなふうに感じてもらうプレミアムフライデーをやっていきたいなというふうに思っています。

さて、その一環として5月の24日の金曜日に、プレ金の官民推進協議会の協力のもと開催をされました「静岡広報たんアワード」、これ皆さん取材されました？行きましたか。今朝その報告を聞いたんですけども、素晴らしい成果があったようですね。それこそプレ金の協力のもとの事業にふさわしいと。これ静岡市内の、市内のみならず県中部地域の社員、広報担当者が80人くらい集まってプレゼンテーションをしあって、ここが良かった、ここが悪かった、こういうふうにしていうことを勉強会のスタイルで時間を使ったという催しなんですけども、第3回プレゼンテーションコンテスト。静岡市の広報課の職員もそこに参加をしましたが、ものすごい啓発をされたということですね。伝えると、伝わるは違うんだということですね。ハンコを押したように広報紙に記事を書いていたら、それが市民に伝わったと思っていたらそれは大間違いだよということですね。

それで嬉しかったのは民間企業の皆さんは、自社の商品をやっぱり宣伝をするということが大事なんだけれども、その奥にはそれを通じて静岡市を良くしよう、地域を良くしようという気持ちの広報担当者がとっても熱意があったんで、公共に属している我々こそ頑張って広報しなきゃいけないと、ものすごくモチベーションを強く持って帰ってきてくれたということなので、広報課長、本当にありがとうございました。これからも頑張ってください。

しょう。これをひとつアイスブレイクの話題にして今日の本論に入ります。

マニフェスト 2019、100 日プログラム 2つの取り組みを始めた、ということです。

お手元にもう一度、私が選挙期間中に配ったマニフェストの本編を配布をさせていただきました。幹事社が4月から交代ということだったので、これをご存知かどうかわかりませんが、この8ページをお開きをいただきたいと思います。

私、このマニフェストにすごくこだわっています。4年間永久保存版にして、田辺がこの4年間、この選挙で、このマニフェストの下で、訴えたことがちゃんとできているかどうかというのを厳しく市民の方々に、とりわけメディアの方々にチェックをしてもらって、そしてPDCAを回していきたいなというふうに思っておりますが、今回4年間という長い任期で確実にやる5大構想や、20の約束もあるんですが、一つの目玉としてね、スタートダッシュをするというスピード感を持って、就任100日以内に成果を出す身近な取組みとして5つ掲げました。

これ、市民の皆さんと市民有志の皆さんとワイワイガヤガヤこれが面白いんじゃないか、あれが面白いんじゃないかと、いろんな項目を何十項目も出してもらった上、最後、5つに残ったのがこのプログラムなんですね。その5つのプログラムで、これは有権者にとっても、「ああ、こんなの出来たらいいな」というふうに身近に感じてもらう政策、マニフェスト、公約として掲げたわけですが、このうちの2つをやりますというのが、今日の発表であります。100日というのが7月の21日になるんですね。7月21日までにやっていくんだということでもあります

まず1つ目、“伺います 各区に市長ミーティング室を設置します！”という100日プログラムの項目ですが、皆さんもご存知のとおり市長室は静岡庁舎のみに設置している執務室であり、駿河区や清水区の企業、団体の方との面接や面会や打ち合わせにあたっては、ここまで来ていただくご足労をおかけしました。そこで、私自身が駿河区や清水区、どの区においても面会や打ち合わせを行う場所と機会が作ることができるように、このたび、市長ミーティング室を立ち上げ、市長を身近に感じていただけるような、目的意識を思って、まず第1回目として6月7日、金曜日に清水区役所で開催することにいたしました。

市民の皆さんもそうですが、区役所で働いている職員の皆さんにも市長を身近に感じてもらう、もちろん区長はいるわけですが、市長も身近に感じていただく。なので、原則としては、そこで執務をするということです。区役所の職員と協議をしたり、指示をしたりという、直接的やりとりをその清水区役所でやります。その合間を縫って企業やいろんな方と話をするというので、当日のスケジュールが決まってきました。

配付資料の中に入っておりますね、自治会連合会の皆さんとあいさつをしたり、東海大学海洋学部の皆さんと意見交換をしたりというスケジュールであります。

なお2回目以降の開催日につきましては資料裏面の一覧表にてご確認ください。各回の開催内容については開催日の1週間前を目途に皆さんへ情報提供する予定です。

結語でありますけれども、この市長ミーティング室の取り組みを通じて現地現場の声を市

政運営における課題解決や新たな政策の展開に繋げていきたいと考えています。

2つ目が、この「探しましょう 静岡魅力掘り起こしツアーを企画します！」という 100 日プログラムであります。

この公約を開催する狙いは 3 つあります。

1 つ目は、この静岡市に対する市民の誇りとか愛着を育むということです。いわゆるシビックプライドというやつですね。これを高めていくということです。今回、市長が案内をするということで普段行けないところに行ったり、あんまり知らないところに良いスポットライトを当てたり特別な体験や見学を通じて、静岡市の特色ある魅力を深く知っていただき、静岡市の観光資源に対する市民の誇りや、関心の高まりを参加者の皆さんには期待したいと思っています。

2 つ目は、そういう参加者の市民の方々の力を借りて、これをメディアの皆さんの力も借りて、情報発信をしていくということが 2 つ目の狙いであります。

マスコミはもちろんのこと、SNS や口コミも利用して、静岡市民が観光客などに静岡市の魅力を大いに拡散してもらうなど発信力の向上を期待をしたいと思います。

そして、3 つ目は、これ参加者、各回 20 名という限定でありますけど、この 20 名の方々は、モニターツアーとして、モニターとして、ここへ連れて行って見て、これどうだったのかという、そういうアンケート調査、アンケートで色々なご意見ご感想を寄せていただきたいと。これによって、さらにその観光資源を磨き上げていきたいと。これが 3 つ目の狙いであります。ここでは課題を把握するだけでなく、静岡市の新しい楽しみ方のヒントも市民の様々なご意見の中で得られるのではないかなということを期待しています。

ツアーは来月と 7 月に 1 回ずつ開催し、いずれも東海道の各宿場を巡るコースとしております。1 回目の開催は 6 月 23 日の日曜日です。これは今年度、官民連携で取り組んでいる今川義元公生誕 500 年祭事業を意識した、東海道府中宿、丸子宿コースであります。

さらに府中宿から丸子宿までの今川義元公、徳川家康公ゆかりの地を巡ります。そして、さらに臨濟寺での特別拝観と座禅の体験、静岡浅間神社での特別見学など、今回のツアーだからこそ体験できるプログラムを用意をし、歴史文化の魅力あふれる街を参加者の皆さんに五感で体験していただけるコースとなっております。

そして 2 回目の開催は、7 月の 20 日、土曜日です。こちらは清水港開港 120 周年記念事業を交えた東海道蒲原宿から江尻宿コースであります。蒲原宿から興津宿のレトロな町並みをめぐり、最後は開港 120 周年に賑わう清水港に向かいます。東海道広重美術館や清見寺などはすでに知られた観光資源ではありますが、学芸員さんによる専門的な解説を聞きながら、その価値を再認識していただくことをはじめ、120 周年記念事業が行われている清水港日の出埠頭エリアを訪れ、これからウォーターフロント開発が進む清水港を実感していただくコースとなっております。

各コースの詳細な内容は、お手元の配付資料、募集チラシをご覧ください。

結語でありますけれども、2日間とも、私が全ての行程で参加いただける皆さんをおもてなしをいたします。そして、普段は入ることができない施設の見学や今回のツアーならではの体験や食事を楽しむことができるプレミアム感満載の行程となっております。各回とも定員は20名です。明日29日水曜日から募集を始めます。ぜひ多くの市民の方々に、このツアー申し込みをお待ちしております。

以上5つの100日プログラムのうち、2つについて実行に移るという発表をさせていただきました。残りの3つ、「わくわく給食」と「職員コンシェルジュ」と「ピアノ」については、後日改めて発表させていただきますので、よろしく願いをいたします。

【司会】

それではただいまの発表項目につきましてご質問がある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は、社名とお名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。

SBSさんどうぞ。

【SBS】

ミーティング室に関して伺いたいんですが、実際にこれ、駿河区役所と清水区役所に部屋はできるんでしょうか、というのは1つ目。それから2つ目として、この今後の予定を見るとだいたい各区2カ月に1回ぐらいのペースなのかなというふうにスケジュール的には見えるんですが、市民の声を聞いていただけるならもっと来てほしいなっていう率直な感想なんです、その2点を教えていただけますでしょうか。

【市長】

まず1つ目の質問は作ります。そういう部屋を作ります。ただ、シンプルにしようと思っております。調度品をたくさん用意したりとか、そういうことは控えるようにということを職員に指示をしております。そういうスペースがあればいいんだろうな、というふうに思っています。また、私が限られた時しか行きませんので、いない時にはそこもオープンスペースとしてね、利用してもらえようなところにしてほしいというふうに指示をしております。汎用性のあるね、そういうスペースにしてほしいというふうに思っています。

2つ目は、今年1年目ですので、行政と議論をしながら、こういう配付資料にあるような開催日にしましたが、私自身が意識的に区役所に出かけるのではなくて、市民のまちづくり推進協議会とか、様々な場所、それも役所が主催をするような鯨張ったような会合ではなくてね、懇親会の席であるとか、あまり2期の8年間では、公務優先で行けなかったような、そういうところにもね、私自身、直接出向いていきたいなというふうに心構えとしては持っています。

【SBS】

いろいろと厳しい意見もあると思いますが、受け止めていただけるんですか。

【市長】

もちろんであります。むしろ厳しい意見やご批判を聞かせていただきたいというふうに思っています。今回、何度か話しましたけれども、選挙戦 14 日間、昼間は“聞く遊説”をしました。「何か静岡市に望まれることはありませんか？」と、私の方から近寄って、聞かせてもらおうと。いろんな意見がありましたし、せつかくのそういう機会だからということで、いろいろ厳しい意見をいただきました。それがすごく、私の今のエネルギーになっています。ひょっとしたら、この市長ミーティング室、やるぞというモチベーションにも、遊説中にいろいろを聞かせていただいた声が生かされていると思います。

【司会】

他にいかがでしょうか。よろしいですか。
ありがとうございます。それでは幹事社質問に移りますので幹事社さんよろしく願いいたします。

【毎日新聞】

清水庁舎の移転の進捗について1点をお伺いしたいんですけども、市長選後の記者会見です。ね、桜ヶ丘病院の移転について、市民に丁寧に説明していきたいとおっしゃってたんですけども、具体的にどのように説明すべきと考えているか。
あと、説明する内容や時期というのは決まっているのか、というのと、先日ですね、地元市民団体の方が市政クラブで会見をして、市役所職員を対象とした内部説明会を開かれたことに対して、抗議をされてたんですけども、団体のメンバーの方は、とにかく市長と会って話したいというふうに言ってたんですが、市民との交換会をする予定等あれば教えていただきたいなと思います。

【市長】

はい、どうもありがとうございます。今日、幹事社質問デビューでありますね。
2つ大きく質問いただきましたので、丁寧に答えていきたいと思えます。
まず1つ目の質問に対してですけれども、私は総合的に議会の皆さんとも議論をして、あのようなコーンバージョンを決めたわけでありまして。それは、いろんな切り口があるんですけども、大きく3つ。
1つは、もちろん災害に強い防災機能を充実させるという切り口。
2つ目は、なんてったって清水の中心市街地を元気にしていかなきゃいけないという経済の活性化の切り口。
そして、3つ目は高齢化社会。連休中に 87 歳のドライバーの残念な事故がありましたけれども、車に頼らなくても、清水駅周辺に地域の公共交通機関、バスや電車でアクセスできて、生活に関連する要件がすべて済むようなコンパクト、そういうシティの形成という、主にこの3つの観点からああいうビジョンを発表したわけです。

ただし、選挙戦を通じて、それこそさっきの「広報たんアワード」にあったように、「伝える」と「伝わる」っていうのは違うんだなあ、ということも実感したわけです。広報しずおか等で、あるいは皆さんの記事を通じて、伝えたつもりだったんだけど伝わってなかったこともあるんですね。

ですので、ここのところをやはり丁寧に、説明していかねばいけないというふうに思っています。私自身が、先ほどの質問にお答えをしたように、いろんなところに意識的に出向いていくと。

それもぎっくばらんな、袈脱いで話せるような雰囲気のところ、私が丁寧に説明をするということも必要だなというふうに思いますし、また、市の職員自身も、もっともっと積極的にそのことについて情報発信力を強めるように指示もしているところです。

その中心が広報課になるわけで、市長公室というのを設置したのも、その情報発信力の強化というのが一番の目的でありますので、従来の広報紙などの広報媒体、チャンネルだけではなく、様々な媒体を通じて、静岡市の進める清水のまちづくりについて、その情報発信をして、新聞を意識的に毎日読む習慣がついている市民だけではなくて、広く市民層に対してやっぱり伝えるような努力をしていかねばいけないというふうに思っております。

また、2つ目の質問について、今回申し入れをいただいた団体の皆さんとの間では、所管課である企画局のアセットマネジメント推進課が何度も伝える努力をしていますし、意見も承っております。引き続き担当課を通じて、丁寧に対応してまいりたいと思います。以上です。

【司会】

幹事社さんよろしいですか。はい、ありがとうございました。

それでは各社さんからご質問がありましたらお受けしたいと思います、いかがでしょうか。

はい、読売さんどうぞ。

【読売新聞】

6月1日から駿河湾フェリーの運行主体が一般社団法人に移行されますけれども、一般社団法人構成員である静岡市として、改めて乗客数確保に向けてどのような魅力を発信していきたいか、PRの方法をお聞かせ願いますでしょうか。

【市長】

これ公設民営でね、何とか経営を軌道に乗せるために、静岡市、重要な役割を果たしていきたいなというふうに思っています。そのために、それこそ、この広報課で鍛えた、たいへん力のある職員をこの駿河湾フェリーの新しい組織に4月から送り込んでおります。

で、2つあると思うんですね、駿河湾フェリーってね。

1つは、観光機能の向上のために駿河湾フェリーをどう活用するかということでもあります。そうすると、いわゆる運搬手段としてのモビリティとしてのね、フェリーだけではなくて、その50分間をいかに楽しく過ごしてもらえるかという空間作り。これはクルーズ船の船内でのね、時間の過ごし方なんていうのがヒントになると思うんですけど、もっともっと洗練させることができると思うんですね。従来は

あまりそういうことに意識がなかったけれども、中の飲食物を充実させるであるとか、あと多少エンターテインメント性を高めるであるとか、そういうソフト対策ですね。まあ、1時間足らずですので、そんなに時間があるわけではないんですけども、そこが楽しければ。

そして、晴れた日だったら富士山もドカーンと見えるわけだし、晴れた日は富士山をね、堪能することが1つの魅力ですよ、航行中のね。今日のような日でもね、その1時間足らずの乗船時間を楽しく過ごせるようなソフト対策、それを充実させるようにということを、その担当の職員を通じて指示してあります。

で、もう1つは、これを維持しなきゃいけないのはね、特に伊豆市町から強く申し入れを受けているんですけど、彼らからするとね、この路線っていうのはライフラインなんですね。例えば伊豆半島で何か有事があったときには、例えば、あのフェリーを通じて静岡市に避難をしてくる。あるいは病院に来るとい、実際、普段使いでもね、伊豆市から県立総合病院にくるとか、静岡の基幹病院にあるフェリー、鉄道じゃなくてを通じて伊豆半島から多くの患者さんがいらっしやっているという意味では、非常にライフラインなんですね。ですから、これも、この観点からやっぱり維持していかなくちゃいけないというふうに考えておりますので、今回のように公設民営でね、静岡県と連携をして、あるいは伊豆の市町と連携をして、静岡市も役割を果たしていこうというふうに思っているところです。

あとね、静岡市役所の職員に自転車の愛好者がいるんです。去年、ちょっと実験もしてもらったんですけども、市長公室の中にもそのメンバーがいますけれども、あのサイクリングコース、今まで静岡市内の自転車都市ということをやっていたんだけど、この大きな枠組みの中で、例えば清水港から自転車積み込んで、フェリーで伊豆まで行って、そして伊豆からさまざまな、伊豆市・沼津市・三島市・富士市って清水に戻ってくるというようなね、こういうサイクリングコースを、来年、オリパラが伊豆・修善寺でね、自転車競技開かれるということもありますので、その自転車を使った観光コースのアピール、これもやっていきたいなというふうに思ってます。私自身、全国レベルの自転車を活用するまちづくりの協議会に、今まで会員だけだったんだけど、会員というか、頼まれて会員にはなってますけど、もっと積極的にコミットメントをしていきたいなと思っています。

今年、全国大会が今治市で開かれるんですね。あそこは、しまなみ海道として非常に有名で、インバウンドで外国のお客さんも日本に旅行に来てサイクリングを楽しもうという需要もたくさんあるわけですね。そのくらいの、このモデルを一つの目標にして、我々はこの環駿河湾サイクリングコースなんていうのも、もっともっとね、観光開発できるんじゃないかな、なんていうことも、今考えております。

【司会】

よろしいですか。他にいかがでしょうか。SBSさんどうぞ。

【SBS】

今日はちょっと落ち着きましたけれども、ここ数日、5月としては異常なほどの暑さで、そうなるのが学校のエアコンなんですね。計画的にスケジュールを示してらっしゃいますけれども、スケジュールは順調でしょうか。発注状況も含めてというのを伺えればと思ったんですが。

【市長】

順調です。一昨日、私、三菱電機の静岡工場で、年に一度にある「愛 サンサンフェスタ」というイベントに行ってきました。そこで、所長・副所長とも意見交換をしたんですけども、非常にこのことについては当事者意識を高く持ってくださいっております。

ただ、もうね、2年間のうちに 126 校(注:正しくは 86 校)、ドカーンと一気に呵成に整備をしますんでね、本当はかなりタイトなスケジュールになろうかと思えます。今日は教育委員会から、誰か来てるかな、誰も来てないかな。

とにかく、彼らが、今、そういうタイトなスケジュールの中でかなり割り振って、綿密に計画を立てておりますので、また伺っていただければなというふうに思っています。供給側については、そういうことでしたし、所長から日立さんの方もずいぶん頑張っているようだよというふうにかがっております。

【SBS】

学校数が多いからなんでしょうけど、どうしても完全に整備が終わるのが、静岡市は県内の市でも最後の方になってしまうのかなと思いますけれども。

【市長】

そうですね。最後の方っていうのは？

【SBS】

その辺の、いわゆる完全に 100%整備が終わるのが、各市町調べてみると、静岡市、最後の方にどうしてもになってしまうのかなという、その辺の心苦しい気持ちみたいなものは。

【市長】

頑張るしかないですね、はい。

でも、政令指定都市としてのさだめですのでね、ここのところはやっていかないといけないと思う。ただ、我々は自前でやっていくということですのでね、そのメリットもあるんじゃないかなというふうに思っています。

【司会】

ありがとうございました。

はい、静岡新聞さん、どうぞ。

【静岡新聞】

先ほどの清水庁舎の話にちょっと戻らせていただきたいと思いますんですけども、先日、清水の市民団体、8

つの市民団体が合同して、清水庁舎に関して、市長との面会を求めるといったぶん申請書が市長のところにも行っていると思うんですが、今の、市長は団体との間は担当課、アセットマネジメント課が伝える努力をしているっていうのは、面会を今のところはしないということだと思うんですが、先ほど市長ミーティング室の話でもいろんな市民の話を聞きたいと、そういう厳しい意見も聞きたいという話をしていたと思うんですが、今回、その清水の8つの団体と面会をしない、何か理由っていうのはあるんでしょうか。

【市長】

いやいや、そういうことではなくて、今、適切に私だけでなく市職員全体でこういう情報発信力を強めたいよ、というふうに申し上げたんですけど、やっぱりそれぞれの役割分担があろうかと思えますよね。ですから、例えば、私はこの庁舎と病院の問題というのは、予算も議会に認めていただいているので前に進むしかないんです。

そして、前に進むために丁寧な説明を、先ほど申し上げたような総合的に決めたんだよ、ということをご理解いただきたいなというふうに思っているんです。でも、すでに10連休の後、いろんな地区で、清水の地区でまちづくり推進委員会を連合自治会ごとで開いておって、私、そこに足を伸ばすんですね。で、7、8人のテーブルごとに話をするんです。で、海沿いの地区の方々はやっぱり津波のことが心配だって意見を持っているんです、厳しい意見を持っているんですよ。そこへ、僕が実はこうなんですと、JCHOさんがあそこをご所望したんですよというところから始めて、丁寧に説明していくと、最初はね、「市長には騙されないぞ」なんてね、こう頑なに思っている方も丁寧に時間をかけて説明すると、「あ、そういうことだったの」とかね。また、桜ヶ丘病院が、僕がタウンミーティングで、わんわん、JCHOの盾になりましたのでね、それをテレビで見た方は、桜ヶ丘病院は市の病院だというふうに誤解されている方も少なからずいるのが現状なんです。

そういうことで、こうだったんですよということを丁寧に説明していけば、少人数でね、そういうテーブルごとに打ち解けた雰囲気の中で、するとやっとなにかわかったというふうにおっしゃっていただける手応えも感じております。ですので、もう、あそこに行くんだと、もう清水のまちの活性化は待たなしですから、スピード感を持って前に進めるということをご理解をいただいた上で、質問をいただけるということだったら、丁寧に説明をさせていただきたいなというふうに思います。

【司会】

よろしいですか。はい、ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

はい、中日新聞さん、どうぞ。

【中日新聞】

今日、川崎のほうで小学生の子たちに刺傷事件が起きて、女の子が亡くなったと。で、最近でも園児の列に車が突っ込んだりと。そういった通学中とか、そういう子どもたちが外にいる時にいろんな大きな事故だったり、事件だったり起きてるんですけど、まずそこに関しての所感と、あとは市とし

て子どもを守るための何かお考えとか、もしあるのなら教えてください。

【市長】

ふたつ質問いただきましたけど、まず所感としてはね、本当に、不慮の事故で尊い命を失うという事件こそ、ほどほど、悲しいものはないですね。先ほども言及をしましたが、87歳のドライバーがね、暴走をして2歳のお母さんもろとも命を失われたという、そういう報道がありました。そのご主人が今でも信じられないなんていうことで、テレビにも出てこられました。ああいう事故をなんとか防止をしなきゃいけないというこの取り組みを、これ教育委員会だけではなくて、ハード対策としてMaaSの推進、例えばね、車に頼らなくても地域の公共交通機関で、“Mobility as a Service”として中山間地域から拠点の駅まで行けるような、そういう仕組みを作るだとか、そういうことはしっかり、これからやっていかなきゃいけないというふうに思っております。

もちろん小学校、今日は子ども未来局長いるかな、来てないか。教育委員会と連携してそういうようなハード、ソフトの対策をしていかなきゃいけないし、また暑いでしょ、運動会シーズンでしょう、ものすごい現場の学校気をつけています。だいたい今ではね、運動会って僕らの頃はだんだん、だんだん盛り上がる種目があるもんだから、水を差すのはまずいじゃないですか、だんだん次はあれだこれだと言って、だんだん意欲が高まっていったね。でも、そういうことできないですよ、ですから水を差すようで悪いけど2回ぐらいね、小学校、20分、運動場から教室に1回帰して、そこで少し体をクールダウンさせて、そして、また運動場にといいながら、熱中症にならないような、そういうことをしております。

そんなことで子どもを守るということについては、万全の備えをしていきたい、交通事故はその最たるものなんだろうなというふうに思っています。

【司会】

よろしいですか。はい、ありがとうございました。

いかがでしょうか。よろしいですか。はい、ありがとうございます。また足りない部分は所管の方取材の方をお願いできればと思います。

それでは、以上で本日の定例記者会見を終了させていただきます。次回は6月4日、火曜日午前11時からとなりますのでよろしくお願いたします。本日はありがとうございました。